

大豆栽培情報（乾燥対策）

～適期・適正播種で出芽確保を～

令和7年 7月 2日
福岡大城農業協同組合
南筑後・久留米普及指導センター

大豆の収量向上には「適期播種」が重要です。6月27日の梅雨明け以降、晴れが続く予報のため、今後は急激に土壤の乾燥が進むと考えられます。土壤の乾燥による出芽不良が懸念されるため、早急に播種準備を行い、速やかに播種を始めてください。

1 適期に播種を完了するために

（１）土壤水分が低下する前に、速やかに播種

大豆の出芽には、適度な水分が不可欠です。土壤が乾燥した状態で播種すると、出芽までに時間がかかり、出芽不良のリスクが高まります。

（２）一工程播種の活用

部分浅耕一工程播種は、播種位置は浅くなるものの、種子が未耕起部分に接することで、土壤から水分を吸収しやすいため、出芽時の乾燥対策となります。なお、通常のナタ爪を用いた一工程播種も耕起回数を減らすことで、土壤の乾燥を防ぐことができます。

（３）二工程播種の場合、耕起-播種作業は、間を置かず「組み作業」

一度耕起すると、土壤水分は急激に抜けて乾燥が進みます。土壤乾燥を防ぐためにも、作業の間隔は空けず、できるだけ「組み作業」を行ってください。

※雑草が多いが、播種前除草が困難な場合は、播種後土壤処理剤との混用散布も検討してください。

2 播種前後の乾燥対策

（１）播種深度は深めに調整

播種深度は5～6cmと基準よりやや深くする。播種後は、しっかり鎮圧して種子と土壤を密着させる。

（２）土壤水分を保持するために

地下灌漑（フォアス）導入地区では施設を適切に活用し、土壤水分を適正管理します。

導入のない地区では、乾燥害を防ぐため、暗きょ栓を閉めて土壤水分を保持する。

ただし、水路の水位が暗きょ排出口より高い場合は、暗きょ栓を開けたまま管理します。

☆農作業時の熱中症に注意しましょう!!

●日中の気温の高い時間を避け、涼しい時間帯に作業 ●こまめな休息と水分補給

【農薬の安全使用上の注意】①散布前に必ず農薬ラベルの登録内容等を確認！②散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止対策を徹底！③散布後は必ず散布器具（タンク、ホース等）を洗浄！④防除履歴の正確な記帳！